

研究課題	イギリスにおけるホームスタート活動の評価方法に関する研究
研究代表者	西 郷 泰 之（アーバン福祉学科 教授）

I. 研究の目的

イギリス・ブレア政権の子どもと家庭のための国家戦略であるシュア・スタート（Sure Start）施策が開始されて10年を迎える。その手法である「アウト・リーチ」はわが国でも極めて重要な手法であるが、いまだその実践や研究は端緒についたばかりである。

同政権は労働党の政権であり福祉政策には力をいれていることから、この施策は看板施策といえる。シュア・スタート施策が最も中心的に活用した民間活動としてホームスタートがある。ボランティアが家庭に訪問し子育て支援を行う活動で30年の歴史がある。

しかし、近年のイギリスにおけるエビデンス重視の施策運営のなかで、ホームスタートのエビデンスが明確でないとする研究者が少なくない。利用者の気持ちに焦点を当てたボランティア活動が今後継続するか消滅するか岐路に立っていると言えよう。

そこで、こうした即効的な成果が出にくい、気持ちに焦点をあてたホームスタートなどのボランティア活動の効果に関するエビデンスを明らかにするための方法に関する研究を行うことで、これまで効果測定が困難であった分野の効果測定も可能とする研究手法を確立することを研究全体の目的とする。

ホームスタートは現在340か所の地域組織がある。エビデンスの研究はすべての地域組織で行われているわけではないが、いくつかの大規模な組織では単独で実施されている。また、ホームスタートUKでもエビデンスに関する調査が実施されている。こうした調査結果やその手法に関して収集するとともに、ホームスタートの効果測定方法に懐疑的な研究者へのインタビューを行うことで現在のエビデンス研究の問題点を明らかにすることを目標とする。

加えて、我が国ではヒューマンサービスに関する効果測定研究自体極めて遅れている。ホームスタートなどのボランティア活動等、即効性のない気持ちに焦点を当てた活動の効果を明らかにする研究手法を構築することで、わが国において従来効果測定が困難だった活動やサービスを測定することを可能とすることが第

二の目的である。

II. 研究の方法・経過

（1）文献研究

イギリスやアメリカの文献を中心に、効果測定の方法に関する研究の収集にあたった。その主なものは下記のとおりである。また収集に当たってはインタビューにも情報収集の協力を要請した。

- Preventing Child Maltreatment Volume 19 Number 2 Fall 2009
- Assessing Change in Families Following the Home-Start Parenting Program: Clinical Significance and Predictors of Change, 2008
- Understanding Children's Social Care 2008
- Evaluating Family Support 2003
- Home-Start Practice Guide to Monitoring and Evaluation, 2003
- Evaluation of Hawaii's Healthy Start Program 2002
- Evaluation in Child and Family Services 2002
- Home Visiting: Recent Program Evaluations Volume 9 Number 1 Spring/Summer 1999

（2）インタビュー

インタビューはイギリスにおける子ども家庭支援の全体像の把握のために下記の通り実施した。福祉政策研究の第一人者であるサラ・ペイン氏、ホームスタートの組織の側での効果測定の実務的担当者であるホームスタート・インターナショナルのアンナ・シュチュタード氏、国際的な子ども家庭サービスの効果測定の研究者であるマグフォード・ミランダ氏・ニック・フロスト氏、イギリス児童福祉研究者の権威であるジョン・ソバーン氏に対し2009年8月に訪問・インタビューを行った。

- ブリストル大学社会政策研究学部（School for Policy Studies）准教授のサラ・ペイン（Sarah Payne）氏

- ・ホームスタート・インターナショナル事務局長
アンナ・シュチュタード(Anna Stuttard)氏
- ・ヨークメトロポリタン大学教授ニック・フロスト
(Nick Frost) 氏
- ・イーストアングリア大学教授マグフォード・ミラン
ダ (Miranda Mugford) 氏と同名名誉教授ジュ
ン・ソバーン(June Thoburn)氏

Ⅲ. 研究の成果

(1) ホーム・スタートとは

ホーム・スタートとはボランティアによるホーム・ビジティングを実施しているイギリス最大の団体である。2005 年現在、英国全体で、335 のスキーム (Scheme) と称される地域組織を持ち、約 2 万人のボランティア (家庭に派遣されるボランティアは 1 万 5 千人、その他事務ボランティアや無給の理事など) が活動している。各地域組織はそれぞれの地域住民や行政機関により設立され、主にシュア・スタートからの補助により運営されている。約 3 万 3 千の家庭がこのサービスを利用し、約 7 万人の子どもたちが対象となっている。2004 年には 2133 の保護登録された子どもの家庭にボランティアが派遣され、737 人の子どもがボランティアの派遣中に児童虐待のための保護登録が解除になっている。ホーム・スタートが運営するファミリーグループは 196 箇所あり、これは全ホームスタートの 2/3 の地域組織で取り組まれている。2004 年には 11 の新たな地域組織が開設される予定である。また 56 箇所のおもちゃ図書館と 70 のペアレンツ・グループがある。

一般的に 1 つの地域組織 (scheme) で 25 - 30 人程度のボランティアが所属し、1 つの家庭当に一般的には半年間の支援をするので年間 50 - 60 家庭、120 - 150 人の子どもたちがサービスを利用することになる。年間予算は 1 つの組織当たり最小額で £ 17,000 (350 万円) 程度である。これまで女性のボランティアたちの活動に依拠してきたが、近年は父親ボランティア (ボランティア自身父子家庭の父親の場合も多い) の育成に力を入れている。また、ピア (peer = 仲間) サポートも重視しており母子家庭同士や、多胎児の親同士、障害児の親同士で派遣する場合も少なくない。

ホーム・スタートは 1973 年に、ソーシャル・ワーカーをしていたマーガレット・ハリソンがレスター (Leicester) 州で始めた。家庭生活の安定の確保はソーシャル・ワーカーなど専門家だけの力では不十分で

あることを痛感したことがきっかけであった。ボランティアが家庭に入り友人として援助することの有効性を確信して自らソーシャル・ワーカーを辞めて活動に身を投じた。当初は孤立した子育てを解消するための援助というより、子どものいる生活困難・多問題世帯への援助が中心であったようだ。その後、主にイギリスの中部でその活動は広がっていく。そして 1981 年には、イギリスにおける全国組織が結成された。

ホーム・スタートのイギリス中央事務所はレスター州にあり、研修事務所はシェフィールド州 (Sheffield) にある。また、国際的な普及組織としてホーム・スタート・インターナショナルが組織されており、事務所はロンドンである。

2004 年度の全英ホーム・スタートの年間収入は約 298 万ポンド (約 6 億円) である。そのうちでも最も多いのが寄付や遺産などによる収入で約 227 万ポンド (約 4 億 5 千万円) である。その他としては、活動のための助成活動により約 68 万ポンド (約 1 億 4 千万円) や投資収入と利子収入が約 3 万 4 千ポンド (700 万円) である。

支出は、活動のための助成活動経費が約 218 万ポンド (約 4 億 4 千万円) で、支援経費が約 20 万ポンド (約 4 億円)、組織運営経費が約 16 万ポンド (約 3 億 1 千万円)、ホーム・スタート地域組織への補助が約 9 万ポンド (1 億 8 千万円) となっている。

(2) ホームスタートの効果

ホームスタートは活動の有効性について各種の調査による科学的裏づけを明らかにしている。こうした調査結果は公表されているし、また政府の刊行物でも公にされるなど活動の有効性に関する情報提供にも力が入れている。例えば 1994 年の本団体による調査では、ボランティア (ホーム・ビジター) が派遣された家庭の 6/10 の母親たちは活動にとっても満足していることや、半数が意義ある生活の改善がされたと答えている。1996 年の調査では、利用者の 2/3 の母親たちが情緒面で改善されたことが報告されている。子育てが困難な家庭の 1/3 が積極的になり継続的な改善が見られている。少し古い調査であるが 1982 年の調査では、虐待の存在が確認され行政に保護登録されている家庭で、ホームビジターが派遣されている家庭の 86% が保護登録が解除されていることが明らかになっている。

ホーム・スタートの活動で対応できるニーズについての調査結果を 2004 年に英国ホーム・スタートがま

とめた。それによると、2003年8月から2004年3月まで292箇所の英国内のホーム・スタートの活動を利用した9,196の家庭に聞いた結果として下記のとおりとなっている。すなわち、孤立感をなくしたり軽減させたり、親が情緒的に安定したり、他のサービスを利用する際の補助として、親が自信をなくさないようにするためなどが利用目的の主な理由＝ニーズであることがわかる。その他では、家事の手伝いや子どものケアや遊び相手のほか、家計のきりもりの支援などでも活用されていることがわかる。

この前者の調査をより精度を高くして実施したものがオランダで実施されたもので Assessing Change in Families Following the Home-Start Parenting Program: Clinical Significance and Predictors of Change, 2008 で報告されている調査研究である。また、後者の効果測定ツールが現在日々の活動効果を図るものとして活用されている。Home-Start Practice Guide to Monitoring and Evaluation, 2003 に紹介されている。現在この二つの方法が最も典型的なものとして評価を受けている。そこで、以下では日々の活動に効果測定を簡易に実施できるツールと、精度高く測定するツールの2つを研究成果として紹介することとしたい。

3 ホームスタートの評価方法について

(1) 簡易評価方法＝『モニタリングと事後評価のための実践ガイド』について

① 本評価方法が開発された背景

a) ホームスタートの効果測定への社会的要請

ホームスタートのスキームのための、実践的で効果的なモニタリングや事後評価のアプローチを開発するため、全英ホームスタートは1998年5月に慈善組織評価サービスに委託した。家族のための効果測定が最も大きな挑戦の一つであることを早期に理解した。

ホームスタートに関しては、実施中の事業に関して2つの意欲が認められる

a) スキーム自身が、事業の成果のよりよい理解をもとめていると同時に、活動資金提供者からスキームが有効である証拠を明らかにするよう求められている。

b) ホームスタート UK は、全国レベルで情報収集することができる効果測定のための共通手法の開発を強く希望している。

すでにかんがりの実践が、北アイルランドや、ロンドンや南西地域のスキームですでに実施されていること

から、これらの実践に基づいて、慈善評価サービスはこの家族のために成果測定の手法を開発した。

b) 英国政府の協力

1999年7月から2000年7月の1年間で、ホームスタートは英国政府の1年間の実験的なプロジェクトの一つとして選ばれた。実験的なプロジェクトの目的は家庭のためのホーム・ビジティング支援の成果を明らかにするため開発された様式集の効果を測定することであった。

c) その後の活用

この実験の成功に基づいて、新しいモニタリングや事後評価ツールは地域や全国的な説明会により2001年より各スキームに紹介された。そして、ホームスタートは2001年5月に政府が発行した「政策と実践ガイド」(Policy and Practice Guide) に公式に組み入れられ紹介された。

実験の結果、これらのツールは精査され修正された。例えば修正前のもので使用されている言葉は利用者にわかりやすく大幅に修正されるなど、ガイドラインは前述の検討の機会を経て修正された。

② 評価の方法

a) 評価項目について

下記の13項目が利用家庭のニーズの分析から設定されている。

- 1 子育てを応援してくれる人や仲間が欲しい。孤立感を解消したい
- 2 子育てに関する色々なサービスや施設の利用方法を知りたい。
- 3 私(親)自身の心の安定を取り戻したい。
- 4 「自分を大切にしたい」という気持ち(自尊心)や「私はこれで良い(自己肯定感)」という気持ちを取り戻したい。
- 5 私(親)の身体の健康を取り戻したい
- 6 子どもの身体の面での健康をはかりたい
- 7 子どもの心(情緒面)の健康をはかりたい
- 8 子どもの困った行動(問題行動)を減らしたい。
- 9 外遊びや身体を動かす遊び、創作活動など、子どもの成長・発達を促す機会をもっと作ってやりたい。
- 10 家族どうしの争い事やイザコザ、イライラを少なくしたい。
- 11 炊事・洗濯・掃除など、家事をもう少し上手くこなせるようになりたい。
- 12 家計について、やりくり上手になりたい。
- 13 子どもが多い、としご・双子などからくる悩み

を軽くしたい

14 その他

b) 評価方法について

原則的なアプローチは下記の通りとなっている

- 家族のニーズが第1義的に扱われる
- 家族のニーズのアセスメントをより良くするため、家族とともにこの様式を使う
- 評価担当者の業務内容
 - ・あなたがこれらを家族に紹介する前に、これらの様式について完全に理解すること
 - ・あなたが様式をうまく紹介する方法を考える。例えば、あなたの最初の訪問の最後に手短に説明するなど。
 - ・これらは保存する記録の一部であること、そして家族にとって最もよいサービスを提供するため使われる様式であることを最初から家族に伝える
 - ・あなたのアセスメントは様式に示されたカテゴリーによってではなく、家族のニーズによって運転されることを明らかにする。すなわち、カテゴリーは家族により明らかにされたニーズに対応するよう作られなければならないのであって、その逆ではない。

c) 評価過程について

下記はモニタリングと事後評価のツールの使用のための基本となるステージを示している。

- ① 家族が、自ら連絡してきたり、保健師など他機関からの照会で支援を要請してくる段階。
- ② ホームスタートが照会を受けつけ、初回訪問を準備し実施する段階
- ③ ホームスタートが家庭とボランティアの組み合わせを行い、紹介者に報告する段階
- ④ ボランティアと家庭が組み合わされて6週間後に、オーガナイザーはチェックのための訪問を準備し実施する段階
- ⑤ 3から6ヶ月の間に、オーガナイザー（またはコーディネーターやスキームマネージャー）は評価のための訪問を準備し実施する。こうした評価のための訪問は必要であれば、3ヶ月かた6ヶ月ごとに繰り返される段階
- ⑥ a ボランティア派遣が終了する際、家族とともに最終訪問を実施する段階
- ⑥ b この時点でのボランティアが最終評価様式に書き込む段階
- ⑦ スキームがモニタリングや事後評価の情報を集める段階
- ⑧ スキームが情報を広める段階

(2) 精度の高い調査研究の代表的な例

前者は簡易評価ツールで、主に親たちの意識に焦点をあて評価を行うものであった。しかし、より精度の高い、アウトカム評価のための調査研究の代表例として、ホームスタート親研修支援プログラムの効果——親やこどもへの行動上の成果——（Effectiveness of the Home-Start Parenting Support Program: Behavioral Outcomes for Parents and Children）が挙げられる。

① 研究結果の概要

この研究は、オランダにおけるホームスタートの効果に関するものである。J.Asscher、J.Hermanns、M.Dekovic らによってまとめられたものである。

研究目的は、①ホームスタートは母親の状態改善ができるか否か、そして②ホームスタートは母親と子どもの行動変容をさせられるかの2点である。この支援プログラムに6カ月間参加した54人の母親とその子どもたち（1歳半から3歳半）のデータを使い、自己評価と観察によるデータが2回集められている。こうしたデータは同様の育児ニーズを持つ比較のための51家庭と比べられている。確認された養育能力は明確な改善が見られた。しかし、母親の抑うつ状態の改善にはまったく効果は無かった。混在した結果も明らかになっている。一貫した親の役割発揮や観察された感受性はホームスタート群では大きく改善されているが他の養育変数に関しては効果は認められなかった。子どもの行動上の問題は、両群とも2回目の測定では消失するように見えることから、こうした改善はホームスタートの効果とは言い難いことが明らかになっている。

② 研究方法

この研究は二つの家族グループを対象としたものである。一つはホームスタートの支援を受けたグループ、もう一つは同様の危険性を持った比較のためのコントロールグループである。ホームスタートによる介入を受けたグループ（54家庭から構成される）は、26の異なったホームスタート団体からコーディネーターに選ばれた2-5家庭ずつ選ばれている。コントロールグループはホームスタートがない地域のウェルベビー・センターから選ばれている。適切な年齢の子どもたちがいる1000人の親に親のストレスを測る簡単な質問紙（オランダ版親のストレス測定指標）を配布した。

この指標に追加したのは、「あなたは常時子育て支援が必要ですか」（はい・いいえで回答）、「毎週3時間支援をしてくれるボランティアによる支援をうけたいと思いますか」（はい・いいえで回答）、「あなたの子どもさんが他の子どもより難しいと思うことはどの

ぐらいありますか?」(4件法で回答)である。こうして支援が必要と答えた51家庭が選ばれている。この家庭に選ばれた家庭は、治療が必要ではないが一般的な基準を上回るストレスレベルにあるもの、または3つの追加質問のうち少なくとも2つにはいとチェックをしているものとなる。

参加者の募集は、スタッフが協力してくれる親への連絡に必要な情報を受け取ったら1週間以内にこの研究の目的や過程について説明する。参加の表明をしてくれた親は最初の訪問をうけ、最初の質問紙が渡される。そして平均6.8カ月後に実施された2回目の訪問(調査)の約束をとる。最初の訪問から二回目の訪問の間に、ホームスタート家庭のうち3家庭、コントロールグループのうち1家庭が外れている。

ホームスタートグループとコントロールグループの間には人種、子どもの年齢や性別、子どもの数、過去12カ月のライフイベントの数、健康問題などには違いは認められない。しかし、ホームスタートグループの親は若く、学歴が低く、一人親が多かった。

(3) 研究の考察と結果

本研究は、対人サービス、とりわけボランティアによる傾聴と家事・育児の協働により、ストレスが高い孤立化した家庭への訪問型支援を行っているホームスタートの効果のエビデンスを明らかにするための現存するツールに関する調査研究であった。

効果測定に関する調査研究から、ホームスタートUKが開発・活用している簡易型の効果測定方法と、オランダの研究者が実施した調査研究による科学的な測定方法との2つのモデルが存在していることが明らかになった。前者は活動を担う人々や支援を受ける家庭が自らの活動の振り返りのために使用し、後者は客観的事実を明らかにするために使用されている。

今後もこうした日々の実践に寄与する「簡易型の評価ツール」と、科学的な証拠を明示し普遍化するための「客観性のある評価ツール」のそれぞれがその精度を高めてゆかなくてはならない。それに加えて精度を高めるためばかりでなくホームスタートのどの支援がどんな成果につながるかまでわかるようなツールの開発が期待される。

強化され、最終的にはホームスタートの活動や支援の質の改善をしてゆくことにつながる。

わが国でも、ホームスタートの取り組みが徐々に開始されている。本研究で収集した「簡易型」「ホームスタートのエビデンスを明確にする研究を実施し「簡易型の評価ツール」と、科学的な証拠を明示し普遍化するための「客観性のある評価ツール」の開発と、評価結果の蓄積が今後の課題となろう。

また、国際的な研究開発上の課題として挙げられた支援と成果の関係に関する調査方法の開発も今後の課題となろう。

IV. 研究の課題と発展

こうした研究により効果の確認がなされることは、活動の担い手や受け手がホームスタートの活動の効果や重要性について確信できるとともに、普及・広報が